

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



平成25年2月25日(月)～3月3日(日)〔平成25年第9週〕の感染症発生状況

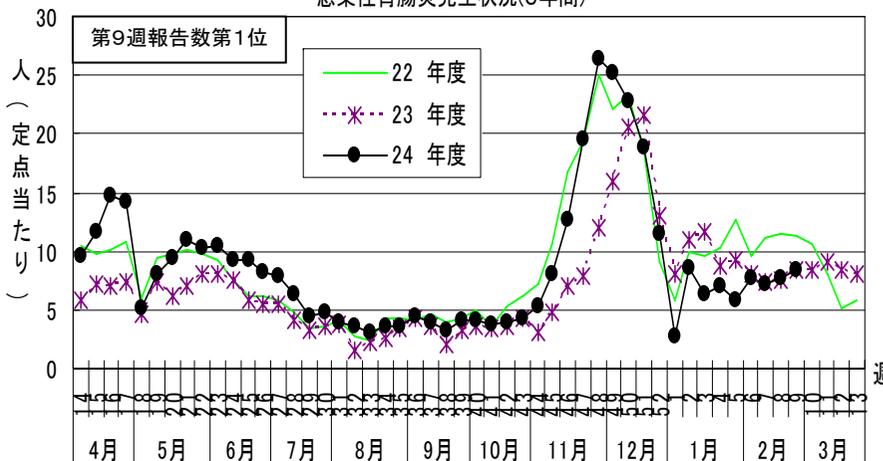
第9週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎は定点当たり8.36人と前週(7.73)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

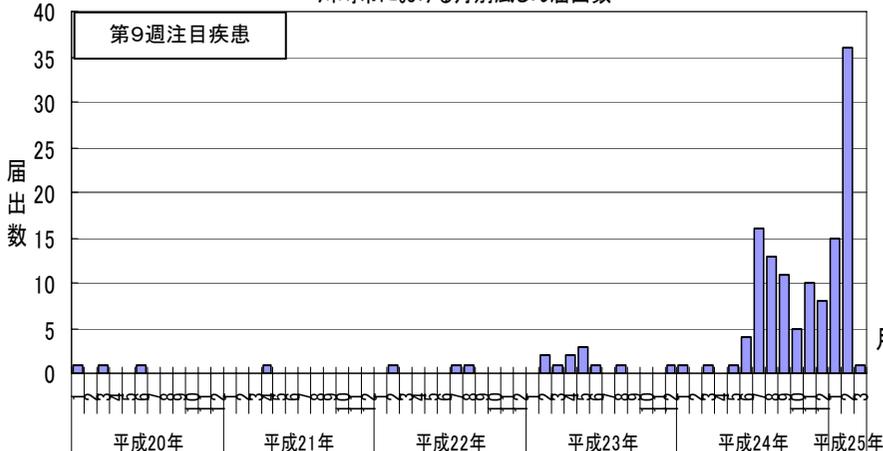
インフルエンザは定点当たり5.67人と前週(7.04)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。

風しんの届出が9件あり、平成24年6月以降、例年を大きく超える流行が続いています。特に、平成25年2月は前月の2倍以上の報告があり、また、3月以降も引き続き報告が続いていますので、風しんへの対策(予防接種など)が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



川崎市における月別風しん届出数



## 生まれてくる赤ちゃんのために「風しんワクチン」

昨年6月以降、全国的に風しんの患者届出数が非常に多くなっており、特に首都圏(東京都や神奈川県など)で顕著に増加しています。

また、抗体を持たない又は低い抗体価の妊娠中の女性が風しんにかかると、赤ちゃんに難聴や心疾患、白内障や緑内障などの障害(先天性風しん症候群)が起こる可能性があります。

### 抗体はみんな持っているの？

平成23年度の国の調査では、20～40代の男性の15%(20代8%、30代19%、40代17%)が風しんの抗体を持っていませんでした。

一方、20～40代の女性の4%が風しんの抗体を持っておらず、11%では感染予防に不十分な低い抗体価でした。

### 風しんってどんな病気？

風しんウイルスによっておこる急性の発疹性感染症で、流行は春先から初夏にかけて多くみられます。

### 潜伏期間・症状

潜伏期間は2～3週間で、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。

### 感染経路

風しんウイルスは飛沫(唾液のしぶき)などでほかの人にうつります。



妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、流行地域では、抗体がない又は低い妊婦の方は、可能な限り人混みを避け、外出を控えるようにしてください。また、妊婦の周りにいる方(夫、子ども、その他の同居家族等)も、風しんを発症しないように、ワクチン接種を検討するなど予防に努めてください。